職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	認可年月	B	校長	名	₹ !	530-0043	所在地			
大阪工業技術専	門学校	昭和	51年10月1	日	校長福	田益和	(住所)	大阪府大阪市北区3 06-6352-0091	長満1−8−24			
設置者名		設立	認可年月	B	代表有	者名		530-0043	所在地			
学校法人福田:	学園	昭和	40年3月31	日	理事長 福	富田益和	(住所)	大阪府大阪市北区3 06-6352-0093	ミ満1−9−27			
分野		認定課程名		認	定学科名			士認定年度	高度専門士認定	年度 職業実践	専門課程認定年度	
工業	I	業専門課程	呈	インテリ	アデザイン	/学科	平成	24(2012)年度	-	平成	26(2014)年度	
学科の目的		は、建築業界 ッショナルの			デザインに	関する学び	(空間を創造	するクリエイティブな技	(術等)を通じ、業界に	おいて信頼される人材と	こして働くことができ	
学科の特徴(取得 可能な資格 等)	建築業界で 築配管)』、	ご就く職種等 また『建築科	に応じて必 責算士補』や	要となる『建翁 『インテリアコ	築士(1級・2 コーディネー	2級)』をはじ -ター』・『福	め、『各施工 祉住環境コ -	管理技士(建築・電気 ーディネーター』等の資	工事・土木・管工事・造 格取得を目指す。	園・建設機械)』や『各技	支能士(建築大工・建	
修業年限	昼夜	全課程の修	多了に必要が 単位	ڼ総授業時数 数	又は総	講家	Ś	演習	実習	実験	実技	
2	昼間	※単位時間、 かに記入	単位いずれ	1,760 単化		896	単位時間	0 単位時間	1,152 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
年				単f			単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員	生徒爭	€員(A)	留学生数	女(生徒実員の内勢	_{数)} (B)	留学生割1	合(B/A)	中退率				
80 人	56			3 人	•	5	%	9 %				
	■卒業者 ■対職系	数(C) 望者数(D)	:		30 21			_				
	■就職者	数(E)	<u> </u>		16		^					
	■地元就	職者数(F)			11 76		<u>人</u>					
		に占める地を	元就職者の	割合 (F/E)			,					
	■卒業者	こ占める就職	機者の割合	(E/C)	69		%					
			~	, .,	53		%					
就職等の状況	■進学者 ■その他	蚁			9							
	5人											
	(令和	5 4	年度卒業者(ご関する令和 €	6年5月1日	日時点の情報	!)					
		職先、業界等	等									
	(令和5年度 建設会計		事務所 ハ	ウスメーカー	_ 丁婺庄	: 4h						
	建议五社	、廷未以曰:	事 初771、7	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	、工物店	I IE						
		評価機関等						無				
第三者による 学校評価			IC DU CITA	3 DL #1%				3.0	価結果を掲載した			
, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		評価団体:				受審年月:			一ムページURL			
当該学科の												
ホームページ URL	https://	www.oct.ac	.jp/course	/interior								
	(A:単位	対時間による	算定)									
		総授業時数								2,048 単位時間		
		i F	うち企業等	と連携した実	験・実習・	実技の授業	総授果時致 うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					
			うち企業等	と連携した演	習の授業時	うち企業等と連携した演習の授業時数						
						于 安义				0 単位時間		
		ļ [·	うち必修授	業時数		于奴	.e-1 304			0 単位時間 1,280 単位時間		
		•	_	業時数 うち企業等と				の授業時数				
					連携した必	%修の実験・	実習・実技の	の授業時数		1,280 単位時間		
企業等と連進した				うち企業等と	連携した必連携した必	が修の実験・ が修の演習の	実習・実技の 授業時数	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間		
企業等と連携した実習等の実施状況				うち企業等と	連携した必連携した必	が修の実験・ が修の演習の	実習・実技の 授業時数	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間		
	(B:単位	z数による算	(うち企業	うち企業等と	連携した必連携した必	が修の実験・ が修の演習の	実習・実技の 授業時数	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	_	(うち企業	うち企業等と	連携した必連携した必	が修の実験・ が修の演習の	実習・実技の 授業時数	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	2数による算 総単位数	定)	うち企業等と	連携した必 連携した必	が修の実験・ が修の演習の シシップの授	実習・実技の 授業時数 業時数)	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	立数による算 総単位数	(うち企業)	うち企業等とうち企業等と	連携した必 連携した必 :インターン : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	が修の実験・ が修の演習の シシップの授 実技の単位	実習・実技の 授業時数 業時数)	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	対による算 総単位数	(うち企業)	うち企業等と うち企業等と 等と連携した と連携した実 と連携した演	連携した必 連携した必 :インターン : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	が修の実験・ が修の演習の シシップの授 実技の単位	実習・実技の 授業時数 業時数)	D授業時数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	対による算 総単位数	定) うち企業等 うち企業等 うち必修単	うち企業等と きと連携した と連携した実 と連携した実 と連携した実 立数 うち企業等と	連携した必必 連携した必 インターン は験・実習・ 関の単位数 連携した必	か修の実験・ か修の演習の シシップの授 実技の単位 な	実習・実技(授業時数 業時数) 数 数			1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	対による算 総単位数	(うち企業 定) うち企業等 うち企業等	うち企業等と うち企業等と 等と連携した と連携した演 立数 うち企業等と うち企業等と	連携した必 連携した必 インターン 験・実習・ 習の単位数 連携した必 連携した必	が修の実験・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	対による算 総単位数	(うち企業 定) うち企業等 うち企業等	うち企業等と きと連携した と連携した実 と連携した実 と連携した実 立数 うち企業等と	連携した必 連携した必 インターン 験・実習・ 習の単位数 連携した必 連携した必	が修の実験・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	対による算 総単位数	(うち企業 定) うち企業等 うち企業等	うち企業等と うち企業等と 等と連携した と連携した演 立数 うち企業等と うち企業等と	連携した必 連携した必 インターン 験・実習・ 習の単位数 連携した必 連携した必	が修の実験・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	放による算総単位数	(うち企業 定) うち企業等 うち企業等 うち必修単	うち企業等と うち企業等と 等と連携した実 と連携した演 立数 うち企業等と うち企業等と 等と連携した	連携した必 連携した必 インターン 験・実習・ 習の単位数 連携した必 インターン	が修の実験・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	数による算 総単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(うち企業 定) うち企業等等 うちか修単 (うち企業 校交の教育等に	うち企業等と うち企業等と きと連携した実 と連携した実 立数 うち企業等と きを連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(単位数 位数)	D単位数	(第12)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	な数による算 総単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(うち企業) 定) うち企業等等 が企業等 がの参加 に対している。 にはいる、 にはいる、 にはいる、 にはいる、 にはいる、 にはい	うち企業等と うち企業等と うち企業等と 連携した実 と連携した実 立数 うち企業等と うち企業等と 事と連携した	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(単位数 位数)		第1号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	数による算 総単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(うち企業) 定) うち企業等等 が企業等 がの参加 に対している。 にはいる、 にはいる、 にはいる、 にはいる、 にはいる、 にはい	うち企業等と うち企業等と きと連携した実 と連携した実 立数 うち企業等と きを連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 を連携した でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 でき	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 業時数) 数 数 実習・実技(単位数 位数)	D単位数	第1号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか	(B:単位	な数による算 総単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(うち企業 定) うち企業等等 うううううち企業等等 (うちを企めをを での数と者 に対している。 (うちをなるのででは、 (うちをなるのででは、 (うちをなるのででは、 (うちをなるのででは、 (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、 (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるのででは、) (うちをなるなるのででは、) (うちをなるなるなるのででは、) (うちをなるなるなるのででは、) (うちをなるなるなるなるなるな。) (うちをなるなるなるなるなるなるなるなるななるなるななるななるななるなななるなななる	うち企業等と うち企業携した実 うち企業携したた実 と連携したた実演 うちを企業携したた実演 うちを企業携したた実演 である。 をとした。 とををといる。 とをは、 である。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 をとした。 を、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技の 授業時数) 業時数) 数 実習・実技の 単位数 (専修学)	D単位数		1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(日:単位	な数による算 総単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(うち企業 定) うち企業等等 ううちかを企業等等単 (うちを企業 校る教と者 学位を有す	うち企業等と うち企業等と うち企業携した実 と連携した実 連携した実 うちを企業携した を を を と を と と き と き と き と き と き と き と き	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技の 授業時数) 教 教 数 実習・実技の 単位数 (専修学)	D単位数	第2号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を を して を を して を を り の 属性 の に を を の に の い で れ の に の に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の と の と の と の と の と の と の と の と の と の	(B:単位	1数による算 総単位数 ① 専修学立 での担当すに 年以上とな。 ② 学士の	(うち企業 定) うち企業等 ううちか企業等単 (うち企業の 校の教と者 (うちを全業の 校の教と者 学校教験の 学校教験の 学校教験の	うち企業等と うち企業等と うち企業等と を連携した実 立数 うち企業等と と連携した 演 立数 うち企業等と た で を を を を を を を を を を を を を を を を した で る の る る を る を る る を る る を る る る る る る る	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技の 授業時数 授業時数) 数 数 実習・実技の 単位数 (専修学) (専修学)	D単位数	第2号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 単位 1 単位		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(B:単位	7数による算 総単位数 ① 専修学す その修学す 年以上とな ② 学士の ③ 高等学	(うち企業 定) うち企業等 ううちか企業等単 (うち企業の 校の教と者 (うちを全業の 校の教と者 学校教験の 学校教験の 学校教験の	うち企業等と うち企業等と うち企業等と を連携した実 立数 うち企業等と と連携した 演 立数 うち企業等と た で を を を を を を を を を を を を を を を を した で る の る る を る を る る を る る を る る る る る る る	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 教 教 を 事を学 (専修学) (専修学)	D単位数	第2号) 第3号) 第4号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を を して を を して を を り の 属性 の に を を の に の い で れ の に の に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の と の と の と の と の と の と の と の と の と の	(B:単位	① 数による算 総単位数 ① 専格学す年 日本の個性をとな ② 常本の ② 高等学生 ④ 修士の	(うち企業 定) うち企業等 ううちか企業等単 (うち企業の 校の教と者 (うちを全業の 校の教と者 学校教験の 学校教験の 学校教験の	うち企業等と うち企業等と うち企業等と を連携した実 立数 うち企業等と と連携した 演 立数 うち企業等と た で を を を を を を を を を を を を を を を を した で る の る る を る を る る を る る を る る る る る る る	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	・ 体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 をの演習の を 体の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の演習の を を の を の で の の で の の の の で の の が の の の の が ら の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 教 教 を 事を学 (専修学) (専修学)	D単位数	第2号) 第3号) 第4号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 4 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 人 0 人 3 人		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を を して を を して を を り の 属性 の に を を の に の い で れ の に の に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の ら に の と の と の と の と の と の と の と の と の と の	(B:単位	① 数 による算 総単位数 ① 専格学す年 年以上と ② 高等学 ② 高等学 ④ 修士の也 ⑤ その他	(うち企業 定) うち企業等 ううちか企業等単 (うち企業の 校の教と者 (うちを全業の 校の教と者 学校教験の 学校教験の 学校教験の	うち企業等と うち企業等と うち企業等と を連携した実 立数 うち企業等と と連携した 演 立数 うち企業等と た で を を を を を を を を を を を を を を を を した で る の る る を る を る る を る る を る る る る る る る	連携した必必は 連携した必必である。 一般では、 一般である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	体の実験・ 体の演習の授 実技の単位 を 体の演習の が 体の演習の は は に お い で が に お り で の 演習の で り で り で り で り で り で り で り で り で り で	実習・実技(授業時数) 教 教 を 事を学 (専修学) (専修学)	D単位数	第2号) 第3号) 第4号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 3 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を 類員の属性(専任 教員について記	(B:単位	1数による算 総単位数 ① 専担管 程の修 2 学士の ② 高等学学 ④ 修士の ⑤ その他 計	(うち企業 定) うちった 楽 等等 単	うち企業等とと連携したた実演とと連携したた事とを連携したたま演り、 ままま では、 まままままままままままままままままままままままままままままま	連携した必と 連携した必と を実習・数 を実習・数 を実習・数 を表示する を表示	が修の実験・の実験・のからかって 実技の単位 を を を を を を の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 数 数 実習・実技(単位数) (専修学) (専修学) (専修学)	D単位数	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 3 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単		
実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入) を を を の属性(専任 を を り の属でいて記	(B:単位	① 数 による算 総単位数 ・ 専担 等 ・ サイ ・ での を ・ でいる	(うち企業) 定) うちの企業等等単 (うち企業等とと連携したた実演とと連携したた事とを連携したたま演り、 ままま では、 まままままままままままままままままままままままままままままま	連携した必必を 連携した必・実置で 連携・クーン ・実質位数・・実質位数・・実質位数・・実質位数・・実質位数・・・・・・・・・・・	が修の実験・の実験・のからかって 実技の単位 を を を を を を の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	実習・実技(授業時数) 数 数 実習・実技(単位数) (専修学) (専修学) (専修学)	D単位数	第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	1,280 単位時間 256 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 3 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 1 単位 1 単位 1 単位 1 単		

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、 新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すに ふさわしい教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ 実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業と連携して実習、又は演習等の授業を行う際の職業実践専門課程の編成にあたり、実習又は演習等の授業の実施に加え、授業 内容や方法及び学生の学修成果の評価について審議する機関として大阪工業技術専門学校教育課程編成委員会を置く。教育課程 編成委員会で審議された授業等(案)は、教務委員会へ附議の後、運営会議で承認を得て採用となる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
赤尾 建藏	公益財団法人 竹中大工道具館 エグゼクティブ・アド バイザー・理事	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	1
児玉 哲也	一般社団法人 日本建築学会 近畿支部 事務局長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	2
木村 吉成	木村松本建築設計事務所 代表	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	3
伊東 和幸	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副 校長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
宗林 功	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教 務課長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
大西 崇之	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 インテリアデザイン学科長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
吉田 裕彦	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 企画開発局長 (兼、建築設計学科長, ロボット・機械学科長)	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_
善才 雅夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進 路支援室長	令和5年4月1日~令和7 年3月31日(2年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月~10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年09月01日 10:00~12:00(令和5年度)

第2回 令和5年09月29日 14:00~16:00(令和5年度)

第1回 令和6年09月13日 10:00~12:00(令和6年度)

第2回 令和6年10月11日 14:00~16:00(令和6年度)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

〔課題〕ICTツールの活用が授業の効率化に寄与する一方で、「教育の本質」を見失わない姿勢が必要とされている。そのために、教員 は次のポイントを意識することが求められている【学生に寄り添った指導・ICTスキル向上・学生と共に成長する姿勢・挨拶を通じたコ ミュニケーション・信頼関係の構築】そしてZ世代への理解と考えている。〔意見〕ICTの活用は、情報を迅速に共有したり、学習活動を効 率化したりするために非常に有用であるが、その一方で「教育の本質」を見失わないことが重要である。教育は単なる情報提供にとど まらず、学生との対話や共感、成長を支える場であるべきである。テクノロジーを駆使しながらも、人間的なつながりや個々のニーズに 応じた指導が大切だと感じる。また、Z世代はテクノロジーに親しんでおり、情報の受け取り方や学習スタイルが従来とは異なることが ある。そのため、Z世代特有の価値観や行動様式を理解することは、効果的な指導のために欠かせないので、ICTツールを活用する際 には、彼らのニーズに応じたアプローチが求められると思われる。〔今後の対応〕「教育の本質」を見失わない姿勢と、Z世代の若者 (学生たち)の本質を十分に理解しながら、効果的な授業展開を進めたいと考えている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメントカ、コミュニケーションカ、プレ ゼンカ、営業カ、会計カ等のカ(本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする)の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於い ては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕 事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等との連携は、主として設計製図、制作実習、また設計、制作のみならずビジネス実務、マネジメント等までをも含めた総合的な職 業実践に関わる実習等において行う。その結果として、学修評価は各科目ごとの全授業日程終了後に、企業等から学校に対して評価 表を以って成績の報告が行われ、それに基づき学校にて単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科 目 概 要	連携企業等
設計製図 I	1.【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じてやぶ。そのなかで建築業界のあらか、実現する能力、伝達する能力、伝達する能力を育りとする。と同時に行りのとする。とで自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。	株式会社アトリエさんかく
設計製図 Ⅱ	1.【校内】企業等からの 講師が全ての授業を主 担当	1年次での設計製図 I や計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることができるということを前提条件にして設計演習を行う。集合住宅、学校、図書館、博物館を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解する。	株式会社アトリエさんかく

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

職業実践教育にかかる実務研修規程に基づき、実務研修計画書の作成に当たっては、組織的に位置付けられたもの、且つ計画的な ものとするため、教務委員会において原案を作成・審議の後、運営会議の承認を得るものとしている。その上で、専門分野の知識・技 術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させ るための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指 す。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

連携企業等: (一社)防災学術連携帯、他 気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開 研修名:

対象: 建築系学科教員 期間: 令和5年4月11日(火)

気候変動がもたらす災害リスク、避難・救命救助などの防災対応、国土利用・まちづくりなど災害対策についての取 内容

組

研修名: グリーンリカバリーと環境工学 連携企業等: 日本学術会議 土木工学・建築学委員会

期間: 今和5年5月30日(火) 対象: 建築系学科教員

内容 COVID-19からの復興と環境工学の役割~建築物における感染症対策と温暖化対策の両立

研修名: ZEBを実現した先導的な取組み 連携企業等: (公社)空気調和・衛生工学会

期間: 令和5年6月23日(金) 対象: 建築系学科教員

内容 庁舎及びオフィスビルの事例に関して、計画の概要とZEBを実現した先導的な取組み

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 令和5年度新任教員研修 連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 令和5年8月1日(火)~8日(火) 対象: 新専任教員

内容教育メソッドを活用した教育実践、他

研修名: 教育DX・データ利活用の現状と今後 連携企業等: EDIX実行委員会

期間: 令和5年5月11日(木) 対象: 全専任教員

内容 デジタル学習環境が定着しつつある中での、教育DXとデータ利活用の現状や課題、今後のポイントについて

研修名: ICT+教育 最前線2023 連携企業等:三谷商事(株)

期間: 令和5年7月21日(金) 対象:全専任教員

内容 情報科的ICT教育の捉え方、他

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 脱炭素・ウェルネス等、複雑化する課題に応える建築設備 連携企業等: (公社)空気調和・衛生工学会

期間: 令和6年6月21日(金) 対象: 建築系学科教員

内容 海外におけるカーボンニュートラル動向、他

研修名: ミスト利用の課題と展望 連携企業等:(公社)空気調和・衛生工学会

期間: 令和6年9月20日(金) 対象: 建築系学科教員

内容
ミストが創る潤いのある生活空間、他

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 令和6年度新任教員研修 連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 令和6年7月26日(金)~8月6日(火) 対象: 新専任教員

内容教育メソッドを活用した教育実践、他

研修名: 教育の「今」と「未来」を考える 連携企業等: EDIX実行委員会

期間: 令和6年5月9日(木)~10日(金) 対象: 全専任教員

内容 我が国の教育の情報化の最新動向、他

研修名: 心に病を持つ学生への対応 連携企業等: 医療法人クリニック

期間: 令和6年9月12日(木) 対象:全専任教員

内容 青年期に発症しやすい精神疾患、他

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校の教育活動、その他の学校運営の状況について、自己点検評価を行うと共に、企業等の役職員等からなる「学校関係者評価委員会」に自己点検評価の結果を評価していただく。また、その結果をホームページ等で広く社会に公表すると共に、今後の教育活動及びその他の学校運営に活かすことをその目的、方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	学校の将来構想を描き、3~5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか
(2)学校運営	業務効率化を図る情報システム化がなされているか (DX化)
(3)教育活動	教育活動(授業体制・カリキュラム・教授力等)の変革について

(4)学修成果	就職に関する目標/資格取得に関する目標/退学率について
(5)学生支援	学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか 入試選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
(9)法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営について
(10)社会貢献・地域貢献	企業・団体、地域との連携について 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献について
(11)国際交流	留学生の受入れ等の戦略的な国際交流について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

総評として、事業計画に基づいて推進する『教育のICT化』に向けた施設整備(全館Wi-Fi装置の強化、及び全教室の電子黒板設置)も完了し、それを有効活用するためのデジタル教材も整いつつあることが分かった。インテリアデザイン学科に関しては、建築とは『タイパ』『コスパ』が悪いものだから、今やっておくことで将来『コスパ』が良くなると考えており、また、当たり前のことを当たり前にやることが大事だとも考えている。その中でZ世代の学生たちにどうやって『共感』を得られるかを考える必要があると言う意見があった。これに対応して、Z世代の若者は生まれた時から通信機器に慣れしたしめる環境にあることから『空間体験』が乏しい、それを踏まえた上での授業に取り組むこととする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
松山 義広		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	高校教員
延安 浩二		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	企業等委員
河野 正道		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	企業等委員
		令和5年年4月1日~令 和7年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

((ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/gakkoukannkeishahyouka.pdf

公表時期: 令和5年9月25日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に 関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し大阪工業技術専門学校の教育活動、その他の学校運営の状況に関する情報≪「専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン」で掲げられた項目-学校の概要、目標計画、各学科の教育、キャリア教育、学生の修学支援、教職員等≫をホームページを通じて恒常的に情報提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要(沿革等)、学校の目標及び計画
(2)各学科等の教育	学校の教育方針、各学科の教育目的・カリキュラム編成、及び学生数等
(3)教職員	各学科の担当教員数(専任・非常勤講師)、他
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、及び就職支援等への取組
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組、及び部活動等の状況
(6)学生の生活支援	学生支援の方針、及び取組状況

(7)学生納付金·修学支援	各種就学支援制度 ※学生納付金等は(2-②)項目で記載
(8)学校の財務	学園の財務状況
(9)学校評価	自己点検評価、及び学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。 (3)情報提供方法 (ホームページ・ 広報誌等の刊行物 広報誌等の刊行物 ・ その他())

 $https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/R6_zyouhouteikyou.pdf$ URL:

公表時期: 令和6年8月23日

授業科目等の概要

	(工業	専門課	程イ	ンテリアデザイン等	授業科日寺の概要 ² 科)											
	必修	分 選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	受業方 演 習	実験・実習・	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	0			設計製図 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各課程を、身近な題材を元にした 設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建発業界のあらゆる職種で必要とされる、考える他力、実現する能力、伝達する能力を要成 することを目的とする。と同時に指品を作っていく課程を選じて、モップくりの思えな体感し、社会で自己実現をとし得る主体	1通	128	4			9	0		0	0	0
2	0			建築製図 I	性、類様性を育む。 業界のどの分別においても求められる。基本的設計能力と作図・諸図能力を種成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定 し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を設整的に高かてゆく。前期については、製図期間の理解からスター トし、平屋建て生から2階載で任宅まで、選せられた条件のもとで計画・設計を行い速気・製図画の作図までを行う、後期に ついては、木造2階速性を及び配造公共建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真剣にこれらと向き合う作業を通じて、技 搭書に求められる集中力や授めなどと同時に発電する。	1通	128	4			0	0		0	0	
3	0			デザイン基礎実習	インテリアデザインを学ぶということは、速気に関する知識やプロダクトデザインに関する知識など、幅広く学ぶ必要がありま す。この授業は知識の習得だけを目的とせず、それらに関連する演習課題等を通じ、インテリアに関する基礎的な知識の定着 と、さらにそれらを深めることで、自身のカでデザインができる基礎的な力の要成を目的としています。また、インテリア業界 を知るキャリアデザイン教育も、兼ねた授業です。	1通	128	4			0	0		0		
4	0			インテリア概論	デザイン機構を通じて学んだインテリアの基礎的な知識をもとに、演習問題等を繰り返し行うことで、学びを定着させることを 目的としている。また、この授業はインテリアコーディネーター資格試験における学科試験対策も兼ねており、資格取得を目指 まことも同めとしている。	1通	128	8	0			0		0	0	
5	0			CAD基礎実習	CADの基礎から応用までを実置を通して学び、多くの課題をこなすことにより、CADの特性や関面のルールを身に付けていきます。同時に進む製図の授業とのコラボレーションも取り入れたいと思います。CADとはどんなものか?手描き図面(スケッチ)と どこが異なるのか等、その長折と照所を理解すると共に、その利用方法、操作方法等を学びます。	1後	64	2			0	0			0	
6		0		テクニカル I	仕事を行う上でも特に重要となる技術の1つに図面での表現技法があります。これらはある一定のルールを身につけるだけで習得できるものではなく、「描くことそのものを考える」ことも重要となります。この授業では図面に指かれる様々な要素を細かく分解し、それぞれをしつかりと考えながら表現する課題を選れて、表現技法に関係を持たせることを目的としています。	1前	32	1			0	0		0		
7		0		テクニカルⅡ	デザイナーに必要な基礎能力としての図学力、スケッチ力、空間及びモノを割り出しそれを伝えるまでの無形のモノを3次元的 にかつビジュアルに表現できる知識と技術を実務・実践的に応用できる技として実習・演習を通して学習する。	1前	32	1			0	0			0	
8		0		建築計画 I	建築というものは人間のための空間です。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければなりません。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」「違形性」を含めた総合的遊形物として創造していかなければなりません。この議僚では、建発計画の概略 総論」から、身近で「4年で、多例に「計画」の基本的な考え方を身につけることを前援に、それぞれの学科の特色を活かしながら、建築計画の意義と必要な基礎知識を養います。	1前	32	2	0			0			0	
9		0		建築計画Ⅱ	この投票では、建築計画 I で字んだ「秘論」及び「住房施設の計画」についての東点を振り返りながら建築計画の [名論] から、字校教育施改、社会教育施改、原象・福祉施改、商業施設の機能・用途をその実例と演習問題を交えながら、「外部空間の計画)点と各種的な関係を学びます。	1後	32	2	0			0			0	
10		0		建築史 I	本講は、単なる建築史知識の脚記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大 切と考えている、歴史は単なる最上ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本 講ではそれを西洋遊覧・日本遊覧を通じて行う。	1前	32	2	0			0		0		
11		0		建築史Ⅱ	本講は、単なる建築生地媒の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大 切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本 講ではそれを近代建設を通じて行う。	1後	32	2	0			0		0		
12		0		建築法規I	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない 諸本のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実 個を空まで建設する。	1前	32	2	0			0			0	
13		0		建築法規Ⅱ	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない 諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実 例を交えて学習する。	1後	32	2	0			0			0	
14		0		建築一般構造 I	この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の環解を目指す。最初は「建築 特とは」から入り、地盤の基型の臓を守む、次に未職金の構成方法(在来工法)を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得す る。また、地球環境面から解体や建設楽策物の問題についても考える。	1前	32	2	0			0		0		
15		0		建築一般構造Ⅱ	この科目では鉄骨精造と鉄筋コンクリート構造と特別コンクリート構造について学ぶ、今日の建築の多くはこれらの構造で造ら れており、その出掛か特性についてよく理解し、その知識を回身とすることは建築ととして必須である。近年、良い建築を長 く使いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。	1後	32	2	0			0		0		
16		0		構造力学 I	継載の一分野に「精査設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの役割を行うもの ある。構造力学! ではその構造設計に到達するまでの前段階。つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱う かという基礎理論から、特定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の希識とし て知っておかなければならない構造力中の基礎の関帯をめざう。	1前	32	2	0			0		0		
17		0		構造力学Ⅱ	構造力学車では材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Iで学んだ内容を基に、特定構造物の芯別解析 から各島材の対象の力度設計でき理解する。50に後半では、原理を不用党構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ この授表では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざ す。	1後	32	2	0			0			0	
18		0		情報処理論	建築技術者でも、ITリテランーは必修条件となっている近年、建築業界においても例がではなくコンビュータ化が進んでいる。 情報製調の基礎として、誰もがパンコンを触れることが大切である。また業並では、アプリケーション等の利用も進んでいるこ とより使用法等についても学ぶ。	1前	32	2	0	Δ		0		0	0	
19		0		建築施工法Ⅰ	建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や性様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを含います。この建築 施工法 (の講像では、建築施工における基本的な用限や施工方法などを系統的に学習し、建築技術をとして無低限知っておくべ き施工知識を学びます。また、2 年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。	1後	32	2	0			0			0	
20		0		キャリアデザイン I	①来界における仕事力を高めるべく、来界の構成、仕組み、役割、仕事の内容、立ち処置などを知り、目指す方向性を見出すための知識を習得する。次に、実際の就職活動を想定した履居書作成、面接対策等のトレーニングを重ねる。②就職活動のみならず社会人としても基礎学力の確実な養成は不可欠である。国語、数学を主とした中学校、高等学校レベルの基礎学力向上を図る。	1通	64	2	0			0		0		
21	0			設計製図II	1年次での設計製図1や計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることができるということを前担条件に して設計演習を予う。集合性と、学校、図書館、特別を定録間、取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、 図面化を通して、各種建築の概要と一道の設計工程を理解する。	2通	128	4			0	0		0	0	0
22	0			建築製図Ⅱ	建築業界のどの分野においても求められる。基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各ターAにおいて作業員を明確に 設定し、その成果を自己認識することによって設計・製配能力を実際的に高めてから、前期については、課せられた結集を作のも とで検討コンクリート構造の4艘建事務でどルの計画・設計を行い、建築一般図面や容証網図、構造図の作図までを学ぶ、後期 については、裁算4番階建工程製物の計画・設計を行い、一般図のも構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と 向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。	2通	128	4			0	0		0	0	
23	0			スペースデザイン a	私たちの生きる時代には様々な問題があります。それたを身近に感じることで、現代におけるデザイナーの役割が見えてきま す。 結果、それは、デザイン」の領域への視野を振りることにつながるのです。この原業はチェル作業を主としています。 ム作業での復眼的なアプローチを通じ、その視野を振得してください。なお、後期からは個人プロジェクトとして取り組みま す。	2通	128	4			0	0		0	0	
24	0			スペースデザイン b	インテリア業界での仕事イメージから作成された課題(キャリアイメージ課題)を通じ、実際に仕事を行う工と必要な様々な技 術を実践的に学ぶ、また、これらの課題から自身の課路を検索するためのきっかけを得ることも目的としている。なお、後期か らは個人プロジェクトとして取り組む。また、BIMソフトウェアの冒得も行い、設計課題との積極的な連携を図る。	2通	128	4			0	0		0	0	
25	0			卒業制作	インテリアデザイン学科での学びの定着と、さらにそれらを発展させた取り組みです。しかし、ここでの卒業制作は「卒業する こと」だけが目的ではなく、平行しながら進んでいる自身の「進路イメージ」(キャリアデザイン)とも繋がったものでなくて ははなりません。よって、事前に作成したボートフォリオをきっかけに、その延長上での作品制作を行います。結果、社会で必 要とされる仕事力を備えた人材へと成実するのです。これは専門学校における「卒業制作」の目的でもあるのです。	2後	(64	2			0	0		0	0	
26	0			CAD応用実習 インテリア特論	を作成するなど、実践的な技術を学びます。このことにより、趙紫楽界で行われる設計競技(コンペティション)などにも有効	2通	128 64	4	0		0	0		0	0	
28	0	0		建築環境工学	インテリアコーディネーター資格試験における学科試験対策も業ねており、資格取得を目指すことも目的としている。 この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や地球の存続しという命題になりつつあり、全世界で排出るこ康に改美のパが建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我なが集たする機は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の	2前	32	2	0			0			0	
29		0		建築設備	建築のあり方を見重し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考えている。 人間の生活に不可久な空気、水、電気について学ぶ。主として本造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、 快速な保性環境を創造するための諸設備(空気調和設備、給練水、衛生設備、電気・ガス設備等)について学習する。また、建	2後	32	2	0			0		0		-
30		0		建築材料学Ⅰ	築設計と設備計画との関連についても富み、伝統的建築材料である木材について学び、後半に現代建築における主要な建築材料である この科目は、まず前半に日本の代表的、この二つを学ぶことにより建築材料による建築の歴史及び可能性を学ぶ。	2前	32	2	0			0			0	
31		0		建築材料学Ⅱ	6コノソサードについてきか。この一ンをきかしてにより重要が終われるの重要の歴史なびり間底できずか。 建築材料目の競争としてこっては出来るだけ多くの材料を取り上げていく、まずは金製製品、特に増売削減料の形類や特別につ いて守ひ女にアルミサッシ等での特徴を知る。次に仕上げ材を分類別にガラス、セラミックス、石材と学び、機能材料などを学 んだ後、リフォームについて学び材料の使い方について考える。	2後	32	2	0			0			0	
32		0		建築施工法Ⅱ	1年次で学んだ建築施工法1を基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすった新工法が整く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を構み重ねていくために必要な抵工知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。	2前	32	2	0			0			0	
33		0		建築積算	建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。 建築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。	2後	32	2	0			0			0	
34		0		キャリアデザイン Ⅱ	「年安に隠き就職活動封策、社会人としての基礎学力習得を目的たしたトレーニングを重ねることに加え、社会人マナーや常識 など他人と下の基本となる考え方、如誠、所作を習得、具体的には、就職対策では面接(個人、集団)、グループインスカッション、プレゼンテーション、操作文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では1年次の間語、数学に加え、英語、理料にまで分 製造なけば、プレゼンテーション、操作文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では1年次の間語、数学に加え、英語、理料にまで分 製造なけばえ	2通	64	2	0		20.40	0		〇	H /AA	単位 /
			合計		卒業要件及び履修方法	科	日				2048		胡間等	単位時間	ы (90.	半111

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 1年次・2年次の必修科目合計48単位の履修合格を含め、選択必修科目・自由選択科目から履修合計した単位との総合計が75単位以上であること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 原則、全科目を履修すること。	1 学期の授業期間	16 週

⁽留意事項)
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうちニ以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について〇を付すこと。

² 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。